１１月号　　令和５年１０月３１日

京橋朝海幼稚園園だより

心が動けば体も動く

園 長　眞家　順子

東京 2020 夏季オリンピックで、注目を集めたボルタリング。学校、幼稚園、公園に、ボルタリングが設置されているところが増えたように感じます。本園でも、３年前の改修工事で、元気な子どもを育む環境の一つとして、室内、園庭にボルタリング施設を設置しました。年中組、年長組は、ボルタリングで遊ぶ機会を計画的につくり、「あそこまで行ってみよう」と自分のめあてをもち取り組む姿や、「ここまで行けた」と喜ぶ姿が見られています。

先日、東京都教育委員会の「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」で、フリークライマーの尾川とも子さんに来園していただき、子どもたちは、ボルタリングの講習を受けました。フリークライマーは、キリン３頭分の高さを難なく登り、スカイツリーの高さも登る方もいるという話です。また、エレベーターよりも、速く登り切れるスピードに驚きました。

年少児は、まだボルタリングの経験はありません。３学年の経験の違いがある中で、どのようにボルタリングの活動を教えていただけるのか楽しみでした。当日、体育館に設定されたホールド（ボルタリングで手足を掛ける突起物）の表示が床に並んでいました。スタートからゴールまで、ホールドの表示から手足が落ちないように這ってゴールする活動でした。４つのコースには、表示が揺れるようになっていたり、表示の間に障害物が置かれていたりしました。年少児から年長児まで、取り組み始めは緊張して固かった表情が、ゴールにたどり着くと安心したような柔らかい表情になり、笑顔が見られ始めました。経験の差があっても、みんなが夢中になってできる活動を、考えていただいたことに大変感心いたしました。

また、年中、年長児は、室内にあるボルタリングの施設を使って、尾川さんの動きを見せてもらいました。柔らかい障害物が臨時に取り付けられていましたが、意図も容易く素早く渡っていく尾川さんの姿に、大きな歓声が上がりました。幼児期は、心情面の働きで、自分から体を動かす気持ちを生みます。心が動くと、体も動きます。年中児、年長児は、自分たちもやってみたいと訴え、年長児が代表して数名、挑戦しました。尾川さんの援助を受け、障害物に引っかかりながらも、渡りきった自分に「できた！」と満足気につぶやいている子もいました。年少児は、自分たちが垂直のボルタリングを経験したことがないので、目の前で行われていることの難しさが実感のない様子でした。ですが、平面のボルタリングのコースは、身近な遊びとして、その後も繰り返し楽しんでいます。実際にホールドをつかむときが来たら、プロの凄さを感じてくるのだと思います。保育活動でも、子どもたちの心を揺さぶる、環境や指導に努めてまいります。

＜今月の学年の目標＞

☆３歳児めだか組　・身近な自然物や園庭の草花を使って、繰り返し遊ぶことを楽しむ。
　　・同じ場で遊ぶ友達や近くにいる友達に、自分の思いを動きや言葉で表そうとする。

☆４歳児いるか組　・身近な素材や自然物を使って遊び、様々な表現を楽しむ。
　　・友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを伝えたり相手の言葉を聞こうとしたりする。

☆５歳児かもめ組　・遊びの中で試したり工夫したりしながら、自分の力を発揮し実現する喜びを味わう。
　　・グループや学級の友達と相談しながら、共通の目的に向かって力を合わせやりとげた満足感を味わう。